

# 本校生徒の実態をは握するための試み

## 悩みの調査、生活心情調査 欲求検査からみて

南蒲原郡栄村立大面中学校教諭

関 塚 倫 也

### はじめに

当校の教育目標は、「品性の陶冶」「能力の伸長」「気力の錬磨」である。全校生徒は約400名、9学級、昭和33年に隣村福島村と合併する以前は大面村と称し、一村一小、中学校であり、地域の人々は教育には強い関心を示し、学校に積極的に協力するという恵まれた環境にある。地域の人々の平均耕作面積は約1.5ヘクタール、蒲原平野の中央部に位置して、10アール当りの収量10俵近い一等水田のため、経済的にも恵まれている。

村の気風はやはり封建的で、消極的な感はぬぐいきれないし、当校に入学する生徒については、大面小学校の卒業生がそのまま入学してくるので、ともすればよい意味での競争意識がき薄であり、消極的で、気力、迫力に欠けているように思われる。しかし、一方では、

精神的にも身体的にも不安定な中学生と接している教師にとっては毎日毎日が緊張と不安の連続であると言ってもよい。なにごとに敏感な感覚で生活する生徒の行動は、時には、親や教師を喜ばせたり、嘆かせたり、おろおろさせたりもするのである。

## I 調査研究の計画

### 1 目 的

「はじめ」に述べた事情からして、当校には生活指導上の問題がないわけではなく、やはり中学生特有の不安や動揺がみられる。私たち教師が、「中学生の悩みは何か、中学生のめだつ特徴やめだたない特徴は何か、中学生はどんな欲求を持っているのか」などについて、中学生が「自我」の目ざめにともなう、毎日の生活における「自己」をどのようにみつめているかをとらえることは、とても重要なことと思われる。

## II 調査、検査の内容および結果

第1表 悩みの調査

対象 全校生徒383名(男子197名、女子186名)  
期日 昭和39年3月実施

番号	項 目	%	番号	項 目	%
1	勉強上の問題		6	ものおぼえが悪くて困る	1.93
1	話すことがにがてだ	45.6	7	勉強してもわからないことが多い	2.82
2	文を書くことがにがてだ	36.0	8	学校の成績が悪くて困る	3.11
3	文を書くことがにがてだ	16.7	9	席次が気になる	1.83
4	読書力が足りない	25.0	10	宿題が多すぎる	2.3
5	不得意科目があつて困る	52.0	11	宿題がむずかしすぎる	3.9

\* 中学生が将来に対する夢と希望をもちながら、さけることのできないコンプレックス(葛藤)などを、少しでもとりのぞき、よりのぞましい師弟の関係を確立し、生徒達は彼らなりに、しっかりした横のきずなどで結ばれ、充実した中学校生活を送ることができれば、生徒にとっても、教師にとっても大変しあわせなことであると思われる。

以上の理由から、私は本校生徒の心のぐうにスポットをあてて、より赤裸々な姿を浮き彫りにして指導上の手がかりをえたいと考え、この調査、検査による研究を試みた。

### 2 対 象

この調査、検査はいずれも全校で実施したいと考えたが、「新訂版 基本的欲求検査」については、各学年、一学級を対象として検査を実施した。そこでこの検査の対象は、一年43名 二年38名、三年45名 計126名である。「悩みの調査」と「生活心情調査」は全校生徒383名を対象に実施した。

### 3 方 法

この調査、検査の試みは、前述のように本校生徒の悩みは何か、欲求は何か、など目に見えない部分にスポットをあてることにねらいがあつた。この種の調査には、地域の実態や、生徒の実態に即応した学校色豊かな問題を作成することが望ましいと考えた。しかしその反面、現代中学生にはどこかしら共通した「像」というものが感じとられる。

そこで、ある程度客観化されており、比較研究できる資料のある方がよいと思われるので、昭和31年10月上旬、文部省が生活指導の一環として試案の形で発表された「悩みの調査」(東京都葛飾区立教育研究所の大石勝男先生)、「生活心情調査からみる現代の中学生像」と題して発表された「中学生の生活心情調査」(昭和39年2月 小学館発行中学教育)、さらに、広島大学 三好稔先生編「新訂版 基本的欲求検査」(東京心理株式会社発行)などの三つの調査、検査を実施した。

番号	項	目	%	番号	項	目	%
12	テストが多すぎる		41.6	58	家の者が宗教にこりすぎる		1.8
13	試験が心配でしかたがない		32.6	4	自分の問題		
14	勉強の時間がじゅうぶんになくて困る		5.0	59	よく眠れないで困る		5.2
15	クラブのため勉強ができなくて困る		3.9	60	よく病気をするので困る		6.0
16	生徒会の役員のため勉強ができない		1.0	61	体力に自信がない		10.2
17	友だちが勉強のじゃまをして困る		2.6	62	やせすぎているので困る		13.3
18	勉強がすすんでできない。		32.4	63	ふとりすぎているので困る		11.2
19	勉強にうちこめない		39.9	64	いやな夢をよくみて困る		5.7
20	勉強がいやでしかたがない		9.1	65	容ぼうがよくないので困る		6.5
21	勉強のしかたがわからない		40.5	66	背が高すぎて困る		5.0
2	交友上の問題			67	背が低すぎて困る		30.5
22	親しい友人がいない		16.4	68	どもので困る		5.2
23	ひとりぼっちだと強く感ずる		9.4	69	体にひとなみでないところがあつて困る		8.1
24	友人にすかれたい		11.0	70	運動がへたなので困る		20.9
25	悪友がついていて困る		2.9	71	耳がよく聞こえないので困る		2.9
26	仲間はずれにされる		4.2	72	近視で困る		8.6
27	貧富によって区別する人がいる		1.0	73	よく頭痛がするので困る		8.1
28	よくけんかをしかける人がいる		11.2	74	神経質なので困る		13.8
29	よく人にいじめられるので困る		5.2	75	そそっかしいので困る		22.5
30	異性の友だちがいない		10.2	76	よくもの忘れをするので困る		25.6
31	異性の友だちとうまく話ができないで困る		17.8	77	おく病なので困る		13.1
32	異性のことが気になって困る		4.4	78	悪いくせがなおらないので困る		18.5
33	男女間のつまらないうわさをされて困る		11.2	79	強情で困る		10.4
3	家庭上の問題			80	指導力がなくて困る		22.7
34	家族の中に病人がいる		6.3	81	いつも自分は不幸だと思っている		3.9
35	両親がいないので困る		0.5	82	いつも失敗しないかと恐れている		10.4
36	かた親がいないので困る		4.4	83	空想にふけりすぎる		9.9
37	親が忙しすぎて気の毒だ		26.9	84	なかなか決心がつかないので困る		20.1
38	親が教育に関心がない		6.3	85	はずかしがりやで困る		37.9
39	親の職業がいやだ		5.0	86	すぐカッとなるので困る		22.2
40	両親の間に意見のくいちがいがあつて困る		8.6	87	気がかわりやすいので困る		14.0
41	兄弟姉妹の仲がよくない		15.7	88	自殺したくなることがある		5.7
42	家庭生活がおもしろくない		10.4	89	人のいうことが気になって困る		26.7
43	親がきびしすぎて困る		5.2	90	すぐ反抗したくなる		19.3
44	家で勉強をみてくれない		10.2	91	他のいうとおりになりすぎる		8.1
45	親がいつまでも子ども扱いにする		11.9	92	なんでも他人にたよりたくなる		6.8
46	親が理解してくれない		9.7	5	生活態度の問題		
47	親がたたくので困る		1.6	93	世の中がつまらない		10.9
48	親の子どもに対する取扱いが不公平だ		11.9	94	なんのために生きているのかわからない		12.9
49	家の手伝いが多くて困る		5.7	95	自分が生れなければよかったと思う		8.6
50	月々きまった小使いがもらえない		26.1	96	戦争が心配でたまらない		5.2
51	学校へ出すお金のことで困る		2.3	97	どんな宗教を信じたらよいかわからない		3.4
52	家のために働かなければならない		1.8	98	迷信を信じる人がいて困る		5.2
53	家に勉強する部屋がない		12.5	99	つい遊びすぎて困る		41.8
54	近所の人と仲が悪いので困る		1.0	100	よい趣味がないので困る		22.5
55	近所に不良の人がいて困る		0.3	101	自分の好きなことをする機会と時間がないので困る		20.1
56	近所に遊びがなくて困る		5.2	102	良い悪いの区別がつかない		3.4
57	一家そろって楽しむことがない		15.9				

番号	項 目	%	番号	項 目	%
<b>6</b>	<b>将来の問題</b>		112	先生の干渉がうるさくて困る	5.0
103	就職できるかどうか心配だ	14.9	113	先生がきびしすぎる	2.6
104	進学したいが成績が悪いので心配だ	37.6	114	先生が生徒の希望をきいてくれない	4.4
105	進学したいが家庭が許さない	4.4	115	学校の設備が悪くて困る	6.3
106	進路について親の意見と合わない	4.7	116	学校の規則がやかましすぎる	22.5
107	職業に対する自分の適性がわからないで困る	33.4	117	学校が遠すぎる	26.7
108	将来何になったらよいかわからない	44.2	118	クラスの空気になじめない	10.2
<b>7</b>	<b>学校と先生の問題</b>		119	先生がやさしすぎる	7.6
109	先生に親しめないで困る	22.2	120	上級生が暴力をふるうので困る	6.3
110	先生の教え方がへたで困る	5.7	121	先生がたたくので困る	0.8
111	先生が自分を認めてくれない	4.2	122	補習に出るのがいやだ	4.7
			123	学校へ行くのがいやだ	11.5

第2表 中学生の生活心情調査

(心情と行動のずれのみられる項目のみ)

対象 全校生徒 380名 (男子183名 女子197名)  
期日 昭和39年5月実施

番号	質 問 事 項 と 行 動	自分のほんとうの心の中	男子	女子	計	番号	質 問 事 項 と 行 動	自分のほんとうの心の中	男子	女子	計
1	あなたは道で先生に出あったとき ・あいさつしない方が多い	・あいさつをしようと思っている	%	%	%		・自分の意見できめる	・自分の意見ではたよりないと思う	%	%	%
			4.9	5.0	5.0				11.4	4.0	7.1
2	あなたは学校で何か困ったことがおきたとき ・あまり先生に相談しない ・先生に相談したことがない	・先生に相談したいと思っている ・ときどき先生に相談してみようかなあと 思う	8.2	19.8	14.2	6	高校入試や就職試験が年々むずかしくなるので ・勉強しようと思うがなかなかできない	・考えるとイライラしていやになる	8.2	9.2	8.7
			16.4	7.7	11.8	7	あなたはクラスでの話し合いのとき ・自分の考えをあまりいわない	・もっと発言したいと思っている	34.5	45.5	40.2
3	あなたは学校でP・T・Aなどがあるとき ・できるだけ出席するようにたのむ ・出席しなくてもいいと言う	・どちらでもいいと思っている ・出席してもらいたいと思っている	6.6	10.6	8.07	8	あなたは週番が「廊下を走らないように」という目標をかかげた時 ・自分は走らないようにする	・みんな走らないようになってほしい	45.6	52.0	49.0
			11.5	12.4	11.8						
4	あなたはある科目の点が大変悪かったとき ・あまり気にかけない	・これからはしっかりとやろうと思う	18.0	22.8	20.3	9	あなたは教室のそうじ当番のとき ・よくやるときとやらないときがある	・しっかりとやろうと思っている	18.0	21.3	19.7
5	あなたは卒業後の自分の進路をきめるとき ・おもに家の人や先生の意見に従う	・自分の考えできめたいと思う	9.8	5.5	7.4	10	あなたは友だちが学校の規則を破っているのを見たとき ・あまり注意しない	・すぐ注意したいと	24.6	36.8	30.8

番号	質問事項と行動	自分のほんとうの心の中	男子	女子	計	番号	質問事項と行動	自分のほんとうの心の中	男子	女子	計
		思う				17	夕方つい遊びすぎて家に帰るのが遅くなったとき ・どこで何をしていたか正直に言う  ・うそを言うことが多い  ・あまり理由を言わない	・悪かったと思うときもあるが少しくらいいいじゃないかと思う ・悪かったと思うときもあるが少しくらいいいじゃないかと思う ・家の人に心配をかけて悪かったと思う	6.6	10.7	8.7
11	あなたは友だちがサボって遊んでいるのを見たとき ・自分の親しい友だちでなければ何も言わない ・言ってもしかたがないからほうっておく	・なんとかよくなつてもらいたい ・なんとかよくなつてもらいたい	4.9	12.4	8.7				13.1	16.7	14.6
12	あなたは男女一緒に仕事をするとき ・男(女)がいるので嫌なことが多い	・一緒にやる方がいいと思う	6.6	10.7	8.7				4.9	3.3	3.9
13	あなたが男(女)と個人的な話をしたいと思ったとき ・あまり話をしたことがない	・いろいろ話し合ってみたいと思う	21.2	28.9	25.2	18	あなたは親が、あまりよくあなたの意見を聞いてくれそうもないとき ・言ってもしょうがないから言うのはやめる  ・腹をたてて何も言わない	・子どもの考えをもっと聞いてほしいと思う ・子どもの考えをもっと聞いてほしいと思う	64.0	53.0	59.0
14	あなたはだれかに悪口を言われていることを知ったとき ・カッとなってその人に文句を言う	・つとめて気にかけないようにしようと思う	4.9	3.3	3.9	19	あなたは自分のやりたいことがあるとき家の人から仕事をたのまれたら ・そのときによつてはやることもある	・気持よく用をやつてやりたいと思う	19.7	3.8	3.08
15	あなたは人に言えない秘密があるかと親に聞かれたとき ・あつてもないと言うことが多い ・あつてもないと言うことが多い	・親に心配をかけたくないから ・関係のないことに口をはさんでもらいたくないから	11.5	24.4	18.2	20	あなたは家の人に勉強しなさいと言われたとき ・勉強をするふりをしごまかす ・言われるとかえつて勉強しない	・しっかり勉強しなければと思う ・勉強のことは自分の自由な気持ちにまかせてほしいと思う	23.0	2.9	2.6
16	あなたは、机の上や本箱、鞆の中などをあなたの留守に家の人がかたづけてくれたとき ・よかったと思ったりめいわくだと思ったりする ・勝手にいじられるといやな気がする	・「ありがとう」という気持ちをもつ ・ありがたいと思うときと、そうでないときがある	6.6	6.1	6.3				16.4	4.4	10.0
			7.0	3.3	6.0						

第3表 基本的欲求検査

対象 123年無作為抽出組ずつ126名(男子62名,女子64名)

期日 昭39年11月末実施

(A)

(B)

欲求の種類 学年男女 段階	愛 情 の 欲 求					合 計	成 就 の 欲 求					合 計
	1	2	3	男 子	女 子		1	2	3	男 子	女 子	
+	13人 (32.9)	12 (31.5)	19 (42.2)	22 (36)	22 (33)	44 (35)	7 (16.0)	7 (18.4)	6 (13.3)	6 (9.8)	14 (21.6)	20 (15.9)
0	20人 (45.9)	15 (39.5)	15 (33.4)	27 (43)	23 (36)	50 (39.6)	27 (64)	21 (55.2)	26 (57.9)	42 (67.5)	32 (50.8)	74 (58.7)
-	10人 (23.2)	11 (29)	11 (24.4)	13 (21)	19 (31)	32 (25.4)	9 (20)	10 (26.2)	13 (28.8)	14 (23)	18 (27.6)	32 (25.4)
計	43人 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)	43 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)

(C)

(D)

欲求の種類 学年男女 段階	所 属 と 参 加 の 欲 求					合 計	独 立 の 欲 求					合 計
	1	2	3	男 子	女 子		1	2	3	男 子	女 子	
+	7 (16)	14 (36.9)	8 (17.8)	15 (24.6)	14 (21.5)	29 (23)	18 (42)	5 (13.3)	3 (6.6)	15 (24.6)	11 (16.8)	26 (20.6)
0	24 (56)	18 (47.3)	31 (68.9)	35 (55.8)	38 (60)	73 (58)	22 (51)	28 (73.4)	22 (48.9)	35 (55.8)	37 (58.5)	72 (57.2)
-	12 (28)	6 (15.8)	6 (13.3)	12 (19.6)	12 (18.5)	24 (19)	3 (7)	5 (13.3)	20 (44.5)	12 (19.6)	16 (24.7)	28 (22.2)
計	43 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)	43 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)

(E)

(F)

欲求の種類 学年男女 段階	経 済 的 安 定 の 欲 求					合 計	社 会 的 承 認 の 欲 求					合 計
	1	2	3	男 子	女 子		1	2	3	男 子	女 子	
+	10 (23)	9 (23.6)	12 (26.6)	19 (31.2)	12 (18.5)	31 (24.0)	3 (7)	4 (10.5)	26 (57)	16 (26.2)	17 (26)	33 (26.2)
0	22 (51)	18 (47.3)	18 (41.2)	28 (44.2)	30 (47.7)	58 (46.1)	35 (81)	28 (73.7)	18 (41)	39 (62.3)	42 (66.3)	81 (64.3)
-	11 (26)	11 (29.1)	15 (33.2)	15 (24.6)	22 (33.8)	37 (29.3)	5 (12)	6 (15.8)	1 (2.0)	7 (11.5)	5 (7.7)	12 (9.5)
計	43 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)	43 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)

(G)

(H)

欲求の種類 学年男女 段階	恐 怖 お よ び 侵 害 を さ け る 欲 求					合 計	罪 を さ け る 欲 求					合 計
	1	2	3	男 子	女 子		1	2	3	男 子	女 子	
+	11 (26)	6 (15.8)	23 (50.1)	21 (34.5)	19 (30)	40 (31.8)	8 (19)	4 (10.5)	0 (0)	7 (11.5)	5 (7.6)	12 (9.5)
0	27 (63)	25 (65.8)	20 (45.5)	34 (54)	38 (60)	72 (57.1)	30 (70)	22 (58)	14 (31)	28 (44.2)	38 (60)	66 (52.5)
-	5 (11)	7 (18.4)	2 (4.4)	7 (11.5)	7 (10)	14 (11.1)	5 (11)	12 (31.5)	31 (69)	27 (44.3)	21 (32.4)	48 (38)
計	43 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)	43 (100)	38 (100)	45 (100)	62 (100)	64 (100)	126 (100)

(I)

(A)

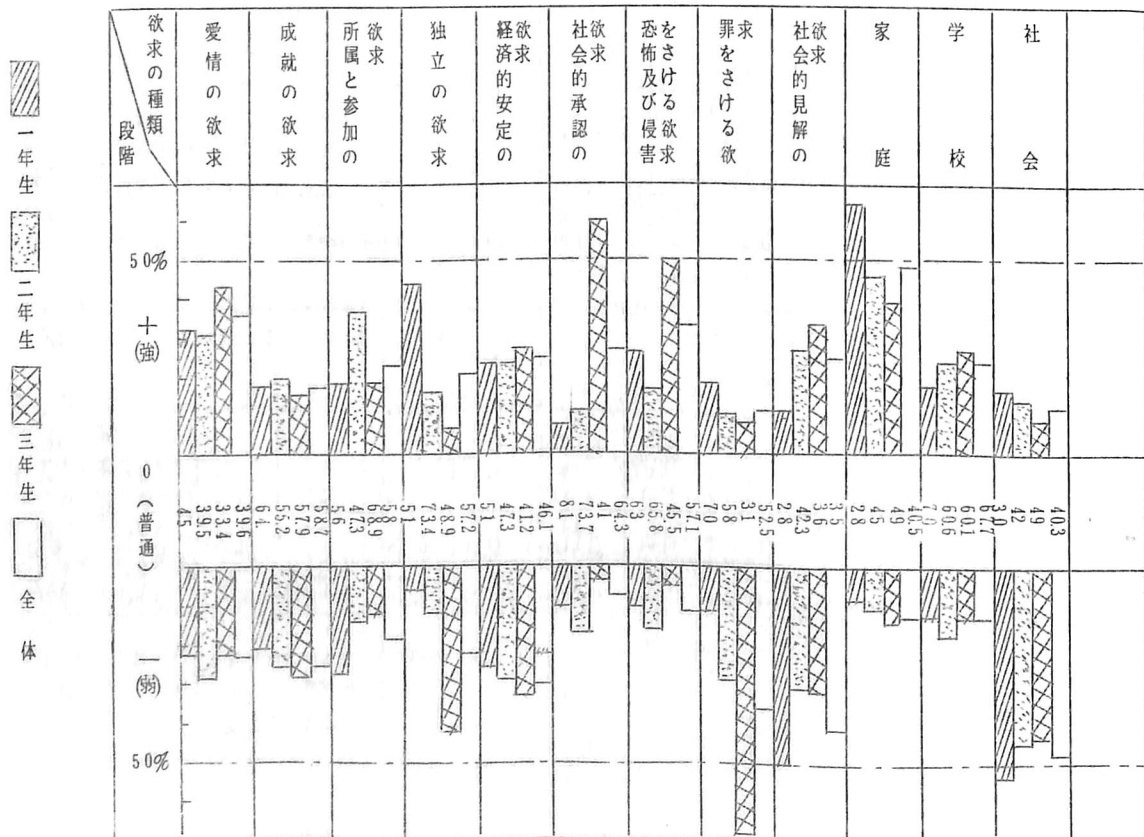
欲求の種類 段階	社会的見解の欲求					合 計	家庭					合 計
	1	2	3	男子	女子		1	2	3	男子	女子	
十	5 (1.2)	10 (2.6.2)	15 (3.3)	16 (2.6.2)	14 (2.1.5)	30 (2.3.8)	28 (6.5)	17 (4.4.5)	17 (3.8)	29 (4.7.0)	33 (5.0.8)	62 (4.9.2)
0	12 (2.8)	16 (4.2.3)	16 (3.6)	22 (3.4.6)	22 (3.5.5)	44 (3.5)	12 (2.8)	17 (4.5)	22 (4.9)	25 (4.0)	26 (4.1.5)	51 (4.0.5)
一	26 (6.5)	12 (3.1.5)	14 (3.1)	24 (3.9.2)	28 (4.3)	52 (4.1.2)	3 (7)	4 (1.0.5)	6 (1.3.0)	8 (1.3)	5 (7.7)	13 (1.0.3)
計	43 (1.0.0)	38 (1.0.0)	45 (1.0.0)	62 (1.0.0)	64 (1.0.0)	126 (1.0.0)	43 (1.0.0)	38 (1.0.0)	45 (1.0.0)	62 (1.0.0)	64 (1.0.0)	126 (1.0.0)

(B)

(C)

欲求の種類 段階	学 校					合 計	社 会					合 計
	1	2	3	男子	女子		1	2	3	男子	女子	
十	8 (1.9)	9 (2.3.6)	12 (2.6.6)	17 (2.7.9)	12 (1.8.5)	29 (2.3)	7 (1.6.4)	5 (1.3)	3 (6.5)	7 (1.1.5)	8 (1.2.6)	15 (1.1.9)
0	30 (7.0)	23 (6.0.6)	27 (6.0.1)	37 (5.9)	43 (6.7.7)	80 (6.3.5)	13 (3.0)	16 (4.2)	22 (4.9)	24 (3.8.1)	27 (4.2.9)	51 (4.0.3)
一	5 (1.1)	6 (1.5.8)	6 (1.3.3)	8 (1.3.1)	9 (1.3.8)	17 (1.3.5)	23 (5.3.6)	17 (4.5)	20 (4.4.5)	31 (5.0.4)	29 (4.4.5)	60 (4.7.8)
計	43 (1.0.0)	38 (1.0.0)	45 (1.0.0)	62 (1.0.0)	64 (1.0.0)	126 (1.0.0)	43 (1.0.0)	38 (1.0.0)	45 (1.0.0)	62 (1.0.0)	64 (1.0.0)	126 (1.0.0)

第4表 基本的欲求検査一覧表





### III 調査、検査の結果の考察

#### 1 悩みの調査に現われた当校生徒のプロフィール

第1表に示したようにこの検査は、(1)勉強上の問題、(2)交友上の問題、(3)家庭上の問題、(4)自分の問題、(5)生活態度の問題、(6)将来の問題、(7)学校と先生の問題などの7つの大きな項目から問題が作成されているわけであるが、やはり(1)勉強上の問題がもっとも多く、ついで(4)自分の問題、(6)将来の問題が多かった。グラウンドを隔ててある小学校より全員そろって中学に進学する当校においては、(3)交友上の問題についてはほとんど問題がなかった。また、春秋二回全校生徒が8〜10名のグループで、宿泊設備の完備した報徳寮で教師、生徒ともども湯舟にひたり、一つかきの飯を食べる当校にあつては、(7)学校と先生の問題については、予想より問題がなかった。

調査の結果パーセントの多いものをぬき出して強く感じられることは、常識的には中学二年生が不安定な時代とは理解しているが、これほど一年と三年の間に違った傾向を含んでいるかと、いまさらその違いの大きさに驚いた次第である。一年生当時、授業時間中でも、学級活動時でも活発だった生徒が、二年になると、とても無口になる。

「話すことがにがてだ」の項目で一年生47%、二年生77%と予想外に増加している。二年生は、一年生と比較して学校生活になれるし、一方では三年生のように責任感がないので、とかく白眼視されやすく、学校生活にしまりがなく、学習意欲もなくなりがちだといわれる二年生が、「試験が心配でたまらない」「勉強にうちこめない」「勉強のしかたがわからない」という悩みを他の学年よりも強く持っているということを、われわれ教師はもう一度みなおしてやるべきであることを痛感する。さらに驚くべきことは、「3.家庭上の問題」の「親が忙しすぎて気の毒だ」の項目については、三年生の倍近くの生徒数が親を同情的にみている。この二年生が、家でも学校でも「口だけはいっちょまえである」「こなまいきな」などと、彼らを嫌なことでできつけ、あしらっているのが現状である。この年頃の人達の心をさらに浮き彫りにする問題は、「4.自分の問題」に含まれている。「なかなか決心がつかないで困る」「はずかしがりやで困る」「指導力がなくて困る」「すぐ反抗したくなる」「人の言うことが気になって困る」および「5.生活態度の問題」の「つい遊びすぎて困る」「よい趣味がないので困る」「自分の好きなことをする機会と時間がないので困る」などの項目である。前にのべてきた悩みは、なにも二年生に限ったことではないが、特に注意すべきことと思われた。なお、「6.将来の問題」に含まれている、「就職できるかどうか心配だ」「進学したいが成績が悪いので心配だ」「職業に対する自分の適性がわからないで困る」「将来何になったらよいかわからない」などの項目については学級活動の重要性が叫ばれ、特に進路指導については、かなりの配慮がなされているわけであるが、進路指導のカリキュラム作成上の一つの留意点とすべきであらうと思われる。

#### 2 生活心情調査から見る当校生徒の像

第2表の調査の設問をされた東京都葛飾区立教育研究所の大石先生は、「中学生の生活心情調査」のねらいと構成について、「われわれの行動あるいは行為と、それを発する(ときには制約する)心情の関係はまことに多様なものである。こういう考えで、こうしたという行動も、それがつかさねられたあとで振り返ってみるとけっして単純な路線ではないはずである。そのときと場では、こうしなければならなかった必然が、たまたま偶然であつたり、偶然でないにしても必然性を持たなかったりする例などきわめて一般的なことがらであるとも言えよう。特に、中学生の場合には、この面で非常に不安定な様相を示しているわけである。行動そのものが自己が納得できないままであつたり、それを発している心理的な動きさえ自分自身の中に存在しないものであつたりする場合など、それはわれわれ成人にくらべてたいへん複雑だとも言えよう。そこでこの調査では主として生徒の心情と行動のつながり、あるいはそのズレに焦点をあててみることにしたのである」と述べられている。

このような、ねらいのもとに作成された調査を当校生徒に実施してみると、さまざまな心理的屈折を経て現われる現代中学生の裸の像がは握できるように感じられた。各調査項目のはじめにそれぞれの場面が構成されており、それについての自分自身の行動、偽わらざる心情が表わされるわけである。学級での話し合いのときには、自分の考えをあまり言わない。しかし、心の中ではもっと発言したいと思っている。週番が廊下を走らないようにという目標を掲げたとき、自分は走らないようにする。しかし、心の中では、みんなが走らないようになってほしいと思う。友だちが学校の規則を破っているのをみたとき、あまり注意しない。しかし、心の中ではすぐ注意したいと思う。男子なり女子なりと個人的な話をしたいと思うときでもあまり話をしたことがない。しかし、心の中ではいろいろ話し合ってみたいと思う。自分がやりたいことがあるとき家の人から仕事を頼まれたら、そのときによつては、やりたいと思う。家の人に勉強しなさいと言われたとき、勉強するふりしてごまかす場合もあるが、心の中ではしっかり勉強しなければと思っていると答える中学生はただ表面的な行動だけで判断することのできぬ複雑さを有しているわけである。つまり、中学生はいちじろしい身体、運動能力の発達に伴う行動力の急激な増大、自我の高揚がますます顕著となり、両親や教師に対する反抗も多くなり、学校の教科内容が高度になり、個人差も大きくなり成績の悪い者は学習についてゆけなくなる。精神発達が顕著になり、批判力も増大するので、おとなの生活や言動の矛盾に気づき、そのうえ中学生に対する不合理な取り扱いに強い反発心を持つてくる。このようなことから社会に対する一般的な信頼感を失ないがちになると思われる。そこでわれわれは、このような要素を念頭に入れて、生徒の有する可能性を尊重しながら、人間対人間のふれあいのある生活指導を行なうべきであらう。

### 3 基本的欲求検査について

「基本的欲求検査の手引き」(P14)に、「検査の結果として表われた反応は個々人が自分の生活環境と自分の関係をどう見ているかという主観的判断である。学業にスポーツにまた集団や社会の種々な場面で相当認められるような成績をあげ、成功的であると思われるものでも成就の欲求が非常に高い場合には、成就の欄のいずれかに高い数値が表われるであろう。すなわち、自分はこの面では満足しているとか、この面ではまことに不満であるとかいうのは絶対的な基準があるわけではなく、その人その人のもちまえがその環境に対してどう感じ、どう動く可能性が多いかを示すと考えられる。レヴィンは、「人と環境との関係で行動が決定される」と言ったが、それはここにもあてはまる。ここに言う人とは人格、素質、もちまえと考えてよい。つまりある環境条件の中にあつて、それをどう感じどう処理するかという傾向態度、可能性と考えられるから欲求の場合はある種の欲求が強いとか弱いとか、また行動が積極的か消極的であつたり無関心であるかというようなことに関係している。」と。

当校生徒の欲求の強い項目は表にも出ているように、一年生の「独立の欲求」「家庭に対する欲求」二年生の「所属と参加の欲求」三年生の「愛情の欲求」「社会的承認の欲求」「恐怖及び侵害をさける欲求」「学校に対する欲求」である。これらの題目は、それぞれ、発達段階に即応していると思われる。ただ、三年生の「愛情の欲求」が一年、二年より高いのは、検査を実施した時期が、進学、就職の最終決定を迫られた二学期の終わりで、その不安感が表われたものとも考えられる。

なお、いささか期待はずれの感があつたのは、「経済的安定の欲求」であつた。この欲求は相当強いものがあるだろうと予想したが、案に相違して20%程度であつた。この原因を考えてみると「はじめ」にものべたように、各家庭の経済状態が比較的安定していて、級友の間に大きな落差がないためとも思われる。道徳の時間に調べたアンケート「私の幸福感」にも、クラスの半数以上の生徒が「特別苦労することもなく、衣生活、食生活、住生活ができ、自分の欲しいものはなんとか親や兄弟が購入してくれるので幸福である」と答えている。

高木四郎氏の児童精神医学論によると、(1)安定感の欲求、(2)承認の欲求 (3)愛情への欲求 (4)成功感の欲求 (5)新しい経験への欲求などの基本的欲求を生徒は持っており、その充足と関連して、問題行

動や、性格のゆがみが出て来ると述べている。本校において、学校に対する欲求が少ないのは、中学時代、師弟ともども湯舟にひたり、寝食をともにして卒業した卒業生の宿泊生活についてのアンケートからも、やや、我田引水的な解釈ではあるが、うなずける気がする。すなわち、報徳寮宿泊生活を経験した卒業生を10%、無作為に抽出し、アンケートを求めた。その結果のおもなものをあげると、「報徳寮宿泊は楽しかった。89.4%」「宿泊生活は役立っている。63%」とこの宿泊が学校と生徒を結びつける大きな働きをしていると思われる。

この欲求検査については、新潟市や、今後他地区でも実施される調査と比較検討して、さらに有効な資料としていきたいと思う。

### むすび

この調査研究は、大きな期待と不安をもってスタートした。全職員全校生徒の協力をえて、一応まとめることができた。

この結果からいろいろな研究方法で生徒の実態を把握することは、それに即応した指導をすることができるということと、生徒の能力や特徴を発見することができるという二つの利点があると思われる。

しかし、調査のみで生徒の実態を全面的に理解できかねるものであり、生徒の実態を理解する手がかりを提供してくれる。この意味あい、この資料に基づき、今後なおいっそうの教育実践研究を進めたいと考えている。

### 参考文献

学級経営事典	第一法規
学級担任実務事典	暁教育図書
生活指導	空本和助
道徳教育と生活指導	沢田慶輔
教育統計入門	四方実、一谷強